

SLAVIC RESEARCH CENTER NEWS No.136 February 2014

大学院だより

◆ 松下隆志さんに日本学術振興会育志賞 ◆



松下隆志さん

このたび、松下隆志さん（北大・院・文学研究科歴史地域文化学専攻スラブ社会文化論専修）が第4回（2013年度）「日本学術振興会 育志賞」を受賞しました。同賞は、わが国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生の顕彰を目的として、2010年度に天皇陛下の御下賜金をもとに創設されたもので、受賞者には学業奨励金が授与される他、特別研究員への採用の道も開けています。今回の受賞者は総計18名、うち社会系3名、人文系1名で、かなりの難関。松下さんの研究課題は「ソ連崩壊後の現代ロシア文学研究」で、各地のポストコロニアル文学や、脱構築主義以降の芸術論・文化

論一般を踏まえながら、現代ロシア文学を「世界文学」のコンテクストに位置づけて研究してきた蓄積と、現代小説の翻訳における功績が評価されたものと思われます。同賞は所属大学長による推薦と所属学会長による推薦を受け付けており、今回の受賞は日本ロシア文学会からの推薦によるもの。松下さんの健闘を称えると同時に、わが国のロシア・スラブ文化研究の活況の証として、喜ぶたいと思います。以下、松下さんの業績。[望月]

論文類

- ・「脱構築から再（脱）構築へ：『青脂』以後のソローキン」『早稲田文学4』早稲田文学会、2011年、570-579頁。
- ・「ポストモダン・ディテクティブ：パーヴェル・ペッペルシテイン『スワスチカとペンタゴン論』」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』第11号、2011年、71-91頁 [http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/journals/item.php?item=53236&handle=2115_47872&jname=309&vname=4916]。
- ・「『物語』の解体と再生：ポストモダニズムを超えて」野中進、三浦晴美、ヴァレリー・グレチュコ、井上まどか編『ロシア文化の方舟：ソ連崩壊から二〇年』東洋書店、2011年、103-111頁。
- ・「ロシアのポストモダニズム文学の現在：ナショナルな欲望との戯れ」『現代ロシア文学とスターリニズム (II)』稚内北星学園大学、2013年、13-34頁。
- ・「『自由』と『不自由』の狭間で：現代ロシア文学を読むための一つの視点」SYNODOS、2013年10月3日 [<http://synodos.jp/info/5715>]。

- ・「再定義される社会主義リアリズム：ミハイル・エリザーロフ『図書館員』をめぐって」(査読有)『ロシア語ロシア文学研究』第45号、2013年、57-76頁。

翻訳

- ・ウラジーミル・ソローキン(望月哲男と共訳)『青い脂』河出書房新社、2012年。
- ・ウラジーミル・ソローキン『親衛隊士の日』河出書房新社、2013年。

研究歴等

- ・2011年度若手研究者等フェローシップ《日本人研究者》派遣者、2011年10月～2012年9月。
- ・日本学術振興会特別研究員(DC2)、2013年4月～2015年3月。

(育志賞関連サイト http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/kettei_2_h25.html)



「ピクベス」「Twitter文学賞」という二つの文学賞を受賞した共訳書



グローバルGCOE

◆ GCOE 博物館展示 「境界研究の拠点形成」の歩み 開催される ◆



展示

2013年11月10日から12月27日まで、北大総合博物館3階企画展示室において、本GCOE監修による第10期展示が開催されました。

これまで5年間のGCOEの活動を一挙にまとめた特別展示で、数々のセミナー・シンポ関連ポスター、1期から9期までの主要展示、関連する文献(スラブ・ユーラシア叢書の数々)、DVD全シリーズなどが余すことなく公開されました。なお、これまでの博物館展示の図録が北海道大学出版会より発行されました。

岩下明裕・木山克彦編著『図説 ユーラシアと日本の国境：ポーター・ミュージアム』
(1800円+税)

http://hup.gr.jp/modules/zox/index.php?main_page=product_book_info&products_id=856

あわせて同展示に連携した土曜市民セミナーも開かれ、GCOE研究員が、境界をテーマとした研究成果を披露いたしました。プログラムは以下の通り。

- ・11月16日(土)
井潤 裕「北緯50度線と3人の旅人：明治大正期の樺太日露国境点描」
平山陽洋「冷戦の深化と『国境の顕現』：与那国・東アジア・東南アジア」



・12月21日(土)
木山克彦「契丹の北西辺防：鎮州城址の調査」
藤森信吉「境界と利益：旧ソ連諸国における天然ガス貿易の裏側」

2009年秋からはじまった本GCOE主催による北大総合博物館土曜市民セミナーは、以上の報告を以て終了となります。多数のご参加、誠にありがとうございました。
[岩下・藤森]



研究成果を披露する平山陽洋氏

研究の最前線

◆ 2013年度冬期国際シンポジウム開催される ◆

センターは恒例の冬期国際シンポジウムを2013年12月12-13日の両日にわたって開催しました。今年のテーマは「Catastrophe and Resurrection: New Approaches to a Changing Slavic Eurasia〈災難と再生：変動するスラブ・ユーラシアへの新しい研究視角〉」でした。

このテーマはもちろん3.11後の世界を念頭に置いたものですが、自然災害だけでなく、大きな社会的災害ないし社会的な変動に伴う混乱をも視野に入れています。つまり、戦争や革命も「カタストロフィー」だととらえ、人々がカタストロフィーをどう記憶し、どう克服していくのかに焦点を合わせようというのが今回のシンポジウムのテーマでした。

戦争や革命を自然災害と同じカタストロフィーとしてとらえることの意味は何かと言えば、「敵・味方」あるいは「勝者と敗者」という対立的世界観を超えることです。敵味方を超えて、勝者と敗者を超えて、生き残った者、ともに痛手を負った者として、あるいはカタストロフィーをともに経験した者として、新たな人間関係や社会関係を築く方向に人々が向かうことです。

今回のシンポジウムでは、以上のような共通の問題関心を基礎として、6つのセッションが設けられました。具体的なテーマは「ロシア帝国におけるムスリム社会の危機と再生」、「ポスト・ソ連期20年の中央アジアにおける体制変動」、「チェルノブイリ・福島と地域の再生」、「国境観光の比較」、「ロシアと極東における第二次世界大戦の記憶」、「ロシア・ソ連文化における〈よそ者〉のイメージ」でした。また海外からの参加はロシア、ウクライナ、ウズベキ



第一セッションで報告するエルキノフ氏

スタン、カザフスタン、エストニア、メキシコ、アメリカ、イギリスからでした。

今回の国際シンポジウムの開催は、くしくも南アフリカの元大統領ネルソン・マンデラ氏が他界した直後でした。彼の示した道、すなわち人種差別は敵味方を争うことではなく、敵味方を超えることから始まるという和解の思想は、南アフリカを超えて世界の規範となるべきものです。

シンポ開催では北海道大学総長室事業推進経費、学術振興会科学研究費、GCOE 境界研究の拠点形成プログラム、トヨタ財団研究助成の支援を受けました。記して謝意を表します。[家田]

Catastrophe and Resurrection: New Approaches to a Changing Slavic Eurasia

災難と再生：変動するスラブ・ユーラシアへの新しい研究視角

2013年12月12日(木)～14日(土) 使用言語：英語・ロシア語

2013年12月12日(木)

Opening Session

宇山智彦(スラブ研究センター長)「開会の辞」；家田修(SRC)「シンポジウムの説明」

Session 1「ロシア帝国におけるムスリム社会の危機と再生」

司会：宇山智彦(SRC)

Aftandil Erkinov (Tashkent State Institute of Oriental Studies/SRC) "Islam 'versus' Islam: Process of Turkicization in the Turkestan General-Governorship (1867-1917)"

Marsil Farkhshatov (Ufa Scientific Center, Russian Academy of Sciences) "Журналы присутствия Оренбургского магометанского духовного собрания: важнейший источник при изучении духовно-религиозной жизни мусульман Внутренней России XVIII - начала XX в."

討論者：長縄宣博(SRC)

Session 2

「ポスト・ソ連期20年の中央アジアにおける体制変動」

司会：田畑伸一郎(SRC)

Bakhtiyor Islamov (Tashkent Branch of Plekhanov Russian Economic Univ./SRC) "Central Asian States 20 Years After"

Erlan Karin (Kazakhstan) "Развитие политических систем в Центральной Азии: проблема транзита власти"

Bhavna Davé (SOAS, Univ. of London) "Kazakhstan: From a Nationalizing to a Migrant-Receiving State"

Discussant：岡奈津子(ジェトロ・アジア経済研)

Session 3「チエルノブイリ・福島と地域の再生」

司会：家田修(SRC)

小澤祥司(環境ジャーナリスト) "Villagers Deprived of Their Lives and Livelihood by the Fukushima Nuclear Disaster"

Rostyslav Omeliashko (State Scientific Centre for Cultural Heritage Protection from Technogenic

Catastrophes, Ukraine) "Опыт сохранения традиционного культурного наследия Украинского

Полесья в зоне Чернобыльской катастрофы"

討論者：塚崎今日子(札幌大)；浅野豊美(中京大)

12月13日(金)

Session 4「国境観光の比較」

司会：岩下明裕(SRC)

Sergey Golunov (Univ. of Tartu, Estonia) "Tourism across the EU-Russian Border: Official Strategies vs Unofficial Tactics"

Tomás Cuevas (Autonomous Univ. of Ciudad Juárez, Mexico) "The Pink Store: A Unique Tourism Enterprise at the US-Mexico Border"

田村慶子(北九州大) "Border Tourism in Southeast Asia: Thailand-Myanmar and Singapore-Malaysia Borders"

討論者：山村高淑(北大観光学高等研究センター)；高松郷子(同)

Session 5 「ロシアと極東における第二次世界大戦の記憶」

司会：平松潤奈（金沢大）

Serguei Oushakine (Princeton Univ.) "Re-enacting Russia's War: On the Affective Management of History"
Philip Seaton (Hokkaido Univ.) "War Memories in Hokkaido: Local vs National Remembering"

荒井幸康（亜細亜大）"Mongolia at the War in 20th Century: The Khalkhyn Gol (Nomon Khan) War and Its War Memory"

討論者：越野剛（SRC）

Session 6

「ロシア・ソ連文化における〈よそ者〉のイメージ」

司会：望月哲男（SRC）

Konstantin Bogdanov (Institute for Russian Literature, RAS) "Blacks in the Soviet Union: The Ethnography of Imaginary Diaspora"

長谷川章（秋田大）"Images of Extraterrestrials in Soviet Films"

Boris Lanin (Russian Academy of Education) "Jews in Slavic Worlds according to Friedrikh Gorenshtein"

討論者：野中進（埼玉大）

12月14日（土）エクスカージョン（余市観光）

湯浅剛（防衛研究所）「封じ込められた紛争？ 軍事力の拡散と国際的要因に見るタジキスタン内戦」（北海道中央ユーラシア研究会）

◆ ソウル大学ジョイント・シンポジウム分科会 ◆
「過去としてのモダニズム：21世紀の視点から見たロシア・モダニズム」
開催される

本分科会は、12月21日（土）午前10時から午後6時まで、ソウル大学アジアセンター（SNUAC）において、スラブ研究センターおよびソウル大学ロシア・東欧・ユーラシア研究所の共催で開催されました。

本分科会は、ロシア・東欧文化研究において今日国際的に活発に議論されているモダニズムおよび隣接分野を扱うものでした。本学からは教員3名および大学院生1名による4本、先方からは教員5名による合計3セッション・9本の研究報告がありました。



第3セッションで報告をおこなう本学大学院博士課程生の松下さん

いずれの報告も高水準であり、また1報告に討論者が1人つき討論も充実しました。会場にはソウル大学以外の韓国人研究者も多く来場し、休憩時間や懇親会などを通じ、活発な意見交換がおこなわれるなど有意義な交流の機会となりました。以下に各セッションの報告題目のみを挙げます。詳しいプログラムは、次のサイトをご参照ください。[野町]

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jp/seminors/src/pdf/20131221.pdf>

第1セッション

望月哲男（センター）「モダニズムへの新しいアプローチ？ フォルマリズムと修辞学に関する今日の言説について」



分科会の参加者

Kyoo Yun CHO (ソウル大学)「詩人マヤコフスキーの広告：『ロシア電報通信社』から『モスクワ農産物連合』まで」

越野剛 (センター)「モダン化としての記憶化：アレシ・アダモヴィッチと第2次世界大戦」

第2セッション

Hyun-Seop PARK (ソウル大学)「エイゼンシュテインと共感」

野町素己 (センター)「詩人よ、黙るな！ しかしどの言語で？ オンドラ・ウィソホルスキによるラフ文語の創造とその今日における意義」

Seon Jeong SEO (ソウル大学)「フォークロア、社会主義リアリズム、スターリン主義の再評価」

第3セッション

Elena KIM (ソウル大学)「ナボコフの小説『断頭台への招待』におけるポストモダニズムの記号とシンボル」

松下隆志 (北大文学研究科・院)「失われた理想郷の再(脱)構築：ソローキンの小説『親衛隊の一日』における未来ロシアの国家像」

Minn Ah KIM (ソウル大学)「バフチンおよびニーチェの著作における身体のコンセプトと美学理論」

◆ 2014年度「スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究」に関する公募結果 ◆

前号でお知らせしたように、センターは共同利用・共同研究拠点中間評価で最高のS評価を受けました。これにより2014年度の全国共同利用・共同実施分特別経費が増額されたことを受け、「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」の公募については、試行として従来の制度を部分的に変更して、「プロジェクト型」の共同研究と「共同利用型」の個人による研究に加え、センターが設定した課題による「共同研究班」の班員の募集も行うことにしました。また、プロジェクト型の1件あたりの研究費も増額しました。

1月13日の共同利用・共同研究拠点課題等審査委員会において応募者を審査した結果、以下の方々が採択されました。結果的に、プロジェクト型の件数も従来より増やすことができました。センターとしては、共同研究班の設置や、プロジェクト型へのアドヴァイザー制導入により、この公募事業とセンター本体の研究活動をより深く関連づける方針であり、皆様のご協力により多くの成果が挙げられることを願っています。[宇山]

2014 年度採択者一覧

プロジェクト型

	申請者氏名	所属機関・職	研究課題名
1	三谷 恵子	東京大学人文社会系研究科・教授	『賢者アキルの物語』のスラヴ語圏テキストの比較研究：スラヴ文献言語学の再構築をめざして
2	下里 俊行	上越教育大学大学院・教授	近代ロシア・プラトニズムに関する学際的研究
3	中村 靖	横浜国立大学国際社会科学府・教授	市場経済移行諸国の生産性成長パターンの比較研究
4	日臺 健雄	埼玉学園大学経済経営学部・専任講師	「計画経済に埋め込まれた市場」としてのコルホーズ市場に関する研究
5	長與 進	早稲田大学政治経済学術院・教授	方言と独立言語の狭間で：東部スロバキア「文章語」の試みを例として
6	シュラトフ・ヤロスラフ	広島市立大学国際学部・専任講師	戦間期の国際秩序形成におけるソ連の役割：その周縁部の構造と現実
7	永山ゆかり	北海道大学大学院文学研究科・助教	北東アジア先住民の民族誌再評価

「共同研究班①（田畑）」班員

＜課題名：ロシアと他のユーラシア地域大国の経済の比較研究＞

	申請者氏名	所属機関・職	研究課題名
1	大野 成樹	旭川大学経済学部・教授	ロシアにおける為替レートおよび株価と国際原油価格の相互関係
2	田畑 朋子	北海道大学スラブ研究センター・共同研究員	ロシアの人口問題、オホーツク海地域の人口、北極圏の人口比較

「共同研究班②（望月）」班員

＜課題名：ロシアと他のユーラシア諸国の文化の比較研究＞

	申請者氏名	所属機関・職	研究課題名
1	井上 貴子	大東文化大学国際関係学部・教授	ロシア・インド・中国における異文化接触とキリスト教音楽の比較研究

共同利用型

	申請者氏名	所属機関・職	研究課題名
1	白村 直也	大妻女子大学・中部学院大学・非常勤講師	チェルノブイリ原発事故後の民間医療支援活動と「異文化接触」
2	福田 宏	京都大学地域研究統合情報センター・助教	戦間期中欧論の比較研究
3	前田 しほ	北海道大学スラブ研究センター・GCOE 共同研究員	ソ連の公式言説における第二次大戦の記憶化の総合的研究
4	中野 幸男	東京大学大学院人文社会系研究科・研究員	ウェブと反体制：1960-70 年代ソ連における反体制運動と現在
5	田中 大	京都大学・同志社大学・非常勤講師	中世スラヴ語文獻（主に法律文獻）における命令表現
6	塩谷 哲史	筑波大学人文社会系・助教	アムダリヤのカスピ海への転流計画から見た帝政ロシアの中央アジア統治

◆ 2014 年度鈴川・中村基金奨励研究員募集中 ◆

鈴川・中村基金の奨励研究員制度を利用して、これまでに多くの大学院生がスラブ研究センターに滞在し、センターおよび北大附属図書館の文献資料の利用、センターで開催されるシンポジウム・研究会への参加、センターのスタッフとの意見交換をおこない、実りのある成果を挙げてきました。2014 年度も昨年同様に募集をおこないます。募集人数は若干名とし、助成対象者は原則として博士後期課程の大学院生です。助成期間は 1 週間以上 3 週間以内です。滞在期間は、原則として 2014 年 7 月から 2015 年 2 月の間。センターの行事をご勘案の上、決めていただければと思います。最終的な日程の調整は、ホスト教員とおこなうことになります。滞在中に一度、自身の研究について発表することが義務づけられます。公募締め切りは 4 月末です。募集要項・応募用紙はセンターのホームページで参照およびダウンロードできます。[望月]

◆ 2014 年度特任教員（外国人）決定 ◆

2014 年度の外国人特任教員として、以下 6 名の正候補者が、過日の協議員会で承認されました。現在、北大全体で外国人教員制度の見直しが進行中ですが、14 年度のスラブ研外国人特任教員については、従来からの制度が継続することになっています。この見直しの関係で募集が例年よりも半年ほど遅くなり、応募者の減少が心配されましたが、実際には若干の減にとどまり 35 名でした。（以下、所属は応募時）[編集部]

アブディラシドフ、ザイナビディン (Abdirashidov, Zaynabidin)

所属・現職：ウズベキスタン国立大学ウズベク文献学部上級講師

研究テーマ：フィトラトの改革主義思想における自由の概念：「イスラームを通しての自由」から「無神論を通しての自由」へ

予定滞在期間：2014 年 7 月 1 日～ 2015 年 3 月 31 日（9 ヶ月）

受入教員：宇山智彦

ゴルノフ、セルゲイ (Golunov, Sergey)

所属・現職：タルトゥ大学 EU- ロシア研究センター研究員

研究テーマ：国境通過問題をめぐるコミュニケーション：EU とロシア・ウクライナの境界のケース

予定滞在期間：2014 年 6 月 1 日～ 2015 年 2 月 28 日（9 ヶ月）

受入教員：岩下明裕

ラーフェン、トーマス (Lahusen, Thomas)

所属・現職：トロント大学歴史学部、比較文学センター教授

研究テーマ：テーマパーク満洲：グローバル時代の記憶

予定滞在期間：2014 年 6 月 1 日～ 2014 年 8 月 31 日（3 ヶ月）

受入教員：望月哲男

マーブルズ、デイヴィッド (Marples, David)

所属・現職：アルバータ大学歴史・古典学部特別教授

研究テーマ：ウクライナ東部とロシアにおける「ホロドモール」への反響：歴史的記憶とアイデンティティの政治

予定滞在期間：2014 年 6 月 1 日～ 2014 年 8 月 31 日（3 ヶ月）

受入教員：越野剛

パプコフ、イリーナ (Papkov, Irina)

所属・現職：ジョージタウン大学宗教・平和・世界情勢研究センター研究員

研究テーマ：終わりのない内戦：21 世紀におけるロシア国内統合の政策

予定滞在期間：2014年9月1日～2014年10月31日（2ヵ月）

受入教員：長縄宣博

ウスマノヴァ、ディリャラ (Usmanova, Diliara)

所属・現職：カザン連邦大学歴史学部教授

研究テーマ：カザン大学の写本・古書調査（1963-2010）：知識の収集、伝統の形成

予定滞在期間：2014年6月1日～2014年9月30日（4ヵ月）

受入教員：長縄宣博

◆ 研究会活動 ◆

ニュース 135号以降、センターでおこなわれた諸研究会活動は以下の通りです。ただし、今号で独立して紹介したものは省略します。[大須賀]

- 11月7日 J. ピェティライネン（ヘルシンキ大、フィンランド）“Russian Elections and Manipulation of the Election Results”（センター特別セミナー）
- 11月12日 大谷崇（早稲田大・院）「ルーマニア民族の運命とアイデンティティ：エミール・シオランとミルチャ・ヴルカネスク」（ユーラシア表象研究会）
- 11月18日 山崎佳代子（詩人、ベオグラード大、セルビア）、V. カラノヴィッチ（詩人、エッセイスト、セルビア）、D. ノヴァコヴィッチ（詩人、セルビア文芸協会書記長）「セルビア詩との対話：講演と朗読」（センターセミナー）
- 11月23日 劉潔（北大・院）“Grazing Activity and Its Influence on the Vegetation in the Alai Valley, Kyrgyzstan”（北海道中央ユーラシア研究会）
- 11月27日 藤森信吉（センター）「国境なき『国家』：沿ドニエストルの興亡」（GCOE・UBRJ セミナー）
- 12月7日 第7回スラブ研究センター公開講演会 松里公孝（センター）「ムスリム宗務機構の比較：中国 トルコ インド ロシア」
- 12月13,15日 冬期シンポジウム付属企画「福島・チェルノブイリ研究会」
- 12月14日 湯浅剛（防衛研究所）「封じ込められた紛争？：軍事力の拡散と国際的要因に見るタジキスタン内戦」（北海道中央ユーラシア研究会）
- 12月18日 大野成樹（旭川大）「ロシアにおける為替・金融政策の効果」（客員研究員セミナー）
- 12月19日 小西しょう（オックスフォード大、英国）“Doing Transnational History of Japan”（新渡戸カレッジ/センター共催講演会）
- 12月25日 静永健（九州大）「どこから来たのかぐや姫：中国古典文学の越境と融合」（GCOE・UBRJ セミナー）
- 1月13日 等々力政彦（トゥバ民族音楽家）「シベリア・チュルク諸語による地名に関する資料調査報告」（センター共同研究報告会）
- 1月23日 A. エルキノフ “История интеллектуальной жизни в Средней Азии (XV-XX вв.)”; B. イスラモフ “Uzbekistan on the Eve of Independence (1990-1991)”（センター特別講義）
- 1月25日 「比較植民地史」科研第2回研究会 天野尚樹（センター）「帝国にはさまれた『国内』植民地：サハリン／樺太」；長縄宣博（センター）「帝国統治の煉瓦工からムスリム共同体の代弁者へ：ロシア帝国のタタール人の場合」他、討論
- 2月3日 古川哲（東京外国語大）「プラトーフにおける砂漠：『砂の女教師』と『ジャン』」（ユーラシア表象研究会）
- 2月4日 久保慶一（早稲田大）「セルビアにおける競争的権威主義体制の成立と崩壊：軍・治安機関の役割を中心として」（客員研究員セミナー）

学 界 短 信

◆ 学会カレンダー ◆

2014年6月7-8日 比較経済体制学会 2014年第54回全国大会 於山口大学吉田キャンパス
<http://www.jaces.info/info.html>

6月21日～8月9日 Harvard Ukrainian Summer Institute

<http://www.huri.harvard.edu/husi.html>

6月27-28日 第6回スラブ・ユーラシア研究東アジアコンファレンス 於韓国

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jcrees/text/2014SeoulProposal.pdf>

2015年8月3-8日 ICCEES第9回大会 於幕張 <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/iccees2015/index.html>

センターのホームページ(裏表紙参照)にはこの他にも多くの海外情報が掲載されています。[大須賀]

図書室だより

◆ 【資料紹介】 『チェコスロヴァキア 日刊新聞』 ◆

長 與 進 (早稲田大学)

このたび、北海道大学スラブ研究センター図書室の所蔵資料に、『チェコスロヴァキア 日刊新聞』 *Československý denník* ⁽¹⁾ のマイクロフィルム (全3巻) が加わった。同図書室には以前から同紙の一部 (1919年5月～12月分) のマイクロが所蔵されていたが、今回新たにほぼ全巻が揃ったことは、チェコスロヴァキア軍団プロパーの研究だけでなく、1918～1920年の時期のロシア内戦や日本の「シベリア出兵」の研究者にとっても、心踊る朗報である。

『チェコスロヴァキア 日刊新聞』は1917年12月 ⁽²⁾ から1920年7月まで、旧帝政ロシア各地で発行されたチェコ語の新聞で、発行主体は、当初は在露チェコスロヴァキア国民会議およびチェコスロヴァキア諸団体連合組織 ⁽³⁾、1918年8月から同年12月まではチェコスロヴァキア国民会議在露支部 ⁽⁴⁾、以後表題から発行主体の表示が消える。この事情はおそらく、12月14日のM・R・シチェヴァーニクによる同支部解散命令と関係している。

タイトルが示すように原則として日刊だが (週に1日休刊日あり)、切迫する状況や編集部員の移動のために、数日間刊行が滞ったこともある。大部分の記事がチェコ語で書かれているが、スロヴァキア関連の記事にはスロヴァキア語が使用されることもあり、(とくに初期には) 重要な情報がロシア語で掲載されるケースも散見される ⁽⁵⁾。通し番号によると全部で717号が刊行された。

目を引くのは、軍団の移動とともに刊行地が転々としていることである。1917年12月の創刊号から1918年2月まではキエフ、3月～4月はペンザ [ペンザ協定!]、4月～5月はオムスク、6月～7月はチェリャビンスク [チェリャビンスク事件!]、7月～8月にふたたびオムスク、8月から翌1919年3月までエカチェリンブルク ⁽⁶⁾、同年3月から翌1920年1月までイルクーツク [コルチャーク銃殺!]と、シベリア鉄道沿線を次第に東漸。3月～4月いったん中国領に入り、満洲里、ハイラル [ハイラル事件!]、ハルビンなど東支 (中東) 鉄道沿線各地を経て、1920年4月から7月の終刊号まではウラジヴォストクで刊行された。このような機動性を保つことができたのは、同紙の編集・印刷が専用の鉄道車両のなかで行われていたからである。

基本的に2枚 (4面) 立てだが、1枚 (2面) のときもあり、資料や文芸付録で増ページされている場合もある。第一面には軍団や国民会議支部、(1918年10月のチェコスロヴァキア独立後は) 本国の情勢に関連する記事や論説が配置され、第二、三面は軍事・行政・経済関連の雑報、下段には「ベセダ (議論)」という連載コラム欄が設けられている (扱われるテーマは多種多様)。第四面ではおもに諸外国のニュースが扱われているが、同時代の激動する全世界の動向が、幅広く、そして「中立的な」スタンスで報じられていることに驚かされる。

本紙はロシアに駐在していたチェコスロヴァキア軍団の主要な機関紙であり、第一次世界

大戦末期の世界規模での歴史的な大変動（ブレスト・リトフスク条約、ロシア内戦の勃発、チェコスロヴァキア独立、第一次世界大戦終結、ヴェルサイユ講和会議など）の時期の、ロシア内戦の「特異な」アクターであったチェコスロヴァキア軍団の動向を、「リアルタイム」で内側から窺い知ることのできる貴重な一次資料である。

私個人は、同紙におけるM・R・シチェファーニク関連の報道と、日本と日本軍についての報道に焦点を絞りながら、全体にざっと目を通してある段階である。さしあたり指摘できることは、シチェファーニクがウラジヴォストクに到着する1918年11月半ばまで、彼に関する報道がほとんど見当たらない一方、1919年5月に彼が「悲劇的な」死を遂げた後は、一転して賞賛記事が第一面を飾ることである（「シチェファーニク伝説」形成の現場を観察できる好材料）。日本関連の情報や記事はかなりの量にのぼるが、初期の好意的視点が、しだいに冷静な眼差しに変化する様子を感じ取れる（同紙の基本的立場はリベラル左派と表現できるように思う）。1920年4月のハイラルでの両軍の軍事衝突をどのように報じているのか、ひも解くのが楽しみなような、怖いような……。もちろん政治史資料としてだけでなく、経済・社会・文化関連の問題設定にとっても、同紙の活用範囲は広い。

マイクロの状態はおおむね鮮明で読みやすい。欠号、欠ページはごくまれだが、1919年11-12月分にまとまった欠落が見つかった⁷⁾。マイクロ作成時の手落ちと思われるので、すぐに補充を依頼する予定である。

-
- 1 タイトル中の *denník* のスペルは、チェコ語辞書ではアルハイズム（古風な用法）とされ、現代語では *deník* と書く。だがスロヴァキア語表記は現代語でも *denník* である（発音は [d'ɛ>ɲík]）。つまりこのタイトルは、チェコ人もスロヴァキア人も自分の言語として読めるわけである。命名者が意図的にそうしたのかどうかは、さしあたり不明。
 - 2 1917年には12月24日（露暦らしい）に創刊号が出ただけなので、実質的には1918年1月からの刊行。
 - 3 *Orgán Československé Národní Rady a správy Svazu československých spolků na Rusi*
 - 4 *Orgán Odbočky Československé Národní Rady na Rusi*
 - 5 チェコ語タイトルの下に *Чешско-словацкій*（後に *Чехословацкій*）*дневник* の表示がある。旧正字法が用いられている点に注意。
 - 6（蛇足ながら）1924年から1991年までスヴェルドロフスク。1918年7月にツァーリー家が殺害された町である。
 - 7 第539号～第571号が欠落している。ただし既存のマイクロで556号まではカバーできる。

◆ 藤田整氏蔵書の受贈 ◆

藤田整氏は、1928年京都府にお生まれになり、1955年に一橋大学経済学部を御卒業後、同大学社会学研究科に学ばれました。1963年に大阪市立大学経済学部講師に着任され、1975～1991年には同大学教授を務められ、社会主義経済、ソビエト経済の専門家として御活躍なさいました。大阪市立大学を定年で退かれた後は、大阪経済法科大学に移られ、学長をなされた時もあります。

その間、御著書としては、『社会主義経済と価値法則』（日本経済評論社、1967年）、『ソヴェト商品生産論』（世界思想社、1991年）などを発表されました。

スラブ研究センター図書室は、2011年に藤田整氏より蔵書寄贈のお申し出をいただき、御提供いただいたリストを検討した上で、3回にわたって、計375冊の蔵書を御寄贈いただきました。1950年代以降のソ連で出版されたロシア語の経済書が中心ですが、一部、ドイツ語、日本語のものも含んでおり、変わったところでは、1914年版のベデカーのロシア旅行案内（英文）が含まれています。

藤田氏より御寄贈いただいた資料は、2012年の秋以降、附属図書館で登録・整理が進行中で、ご将来的には、その大部分は、センターの収集した他の露文資料とともに、附属図書館書庫1Fの「スラブコレクション・露文図書」に排架される見通しです。[兔内]

編集室だより

◆ 『ユーラシア国際秩序の再編』（岩下明裕編）刊行される ◆

新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」（2008～2011年）の成果として、ミネルヴァ書房から刊行されている全6巻『シリーズ・ユーラシア地域大国論』のうち、既刊の第1巻と第2巻に続いて、第3巻 岩下明裕編『ユーラシア国際秩序の再編』が刊行されました。新学術領域研究の計画研究「国際秩序の再編」が中心となっておこなってきた活動を紹介・解説する補論を含め、合計10章から成る本書は、ロシア、中国、インド間の国際関係を軸に、冷戦期から冷戦終結後にかけての世界情勢のダイナミクスを読み解く画期的な内容となっています。目次詳細については、センターのウェブサイトで確認できます。



http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/books_new/EurasianRegion/no3.html

なお、このシリーズでは、引き続き第6巻 望月哲男編『ユーラシア地域大国の文化表象』が年度内に刊行される予定です。[後藤]

◆ 『スラヴ研究』 ◆

和文のレフェリー制学術雑誌『スラヴ研究』第61号への投稿原稿は、現在、査読結果を踏まえた修正稿が集まっており、編集委員会にて再検討をおこなっております。

すでにセンターニュースでも、ホームページでもお知らせしておりますように、『スラヴ研究』第62号には、通常の投稿と共に、特集「総力戦、その遺産と傷跡」を掲載する予定です。通常の投稿につきましては事前申し込みを廃止しましたが、特集号につきましては、4月末日までに事前申し込みをお送りください。

宛先は、大須賀みか（mika@slav.hokudai.ac.jp）にお願いします。[長縄]

会議 (2013年11月～2014年1月)

◆ センター共同利用・共同研究拠点運営委員会 ◆

2013年度第2回 1月13日

議題

1. スラヴ研究センター共同研究員の選考について
2. 共同利用・共同研究公募のあり方について
3. その他

◆ センター協議委員会 ◆

2013年度第5回 11月6日

議題

1. 教員の人事について
2. 2014年度特任教員（旧外国人研究員）候補者の選考について
3. スラヴ研究センターの名称変更について
4. 大学間交流協定について
5. その他

2013年度第6回 12月10日

議題

1. 教員の人事について
2. スラヴ研究センターの名称変更に伴う規程の改正について
3. その他

2013年度第7回 1月16日

- 議題
1. 教員の人事について
 2. 次期センター長候補者の選出について
 3. 名誉教授の推薦について
 4. その他

[事務係]

みせらねあ

◆ 人物往来 ◆

ニュース 135号以降のセンター訪問者（客員、道央圏を除く）は以下の通りです（敬称略）。
[宇山／大須賀]

- 11月7日 Jukka Pietiläinen（ヘルシンキ大、フィンランド）
11月11日 古川哲（東京外国語大）
11月12日 大谷崇（早稲田大・院）
11月18日 山崎佳代子（詩人、ベオグラード大、セルビア）、Vojislav Karanović（詩人、エッセイスト、セルビア）、Duško Novaković（詩人、セルビア文芸協会書記長）
12月12-13日 Tomás Cuevas（シウダーファレス自治大、メキシコ）、Bhavna Dave（ロンドン大、英国）、Marsil Farkhshatov（ウファ学術センター歴史・言語・文学研究所、ロシア）、Sergey Golunov（タルトゥ大、エストニア）、Isabel Hernández（シウダーファレス自治大、メキシコ）、Erlan Karin（カザフスタン）、Boris Lanin（埼玉大）、Rostislav Omeliashko（対人為的災害・文化遺産保護国家科学センター、ウクライナ）、Serguei Oushakine（プリンストン大、米国）、秋山徹（早稲田大）、浅野豊美（中京大）、荒井幸康（亜細亜大）、大野正美（朝日新聞社）、岡奈津子（アジア経済研究所）、小澤祥司（環境ジャーナリスト）、篠原琢（東京外国語大）、清水学、武田昭文（富山大）、田村慶子（北九州市立大）、野中進（埼玉大）、長谷川章（秋田大）、平松潤奈（金沢大）、古谷大輔（大阪大）、山本耕三（熊本大）、湯浅剛（防衛研究所）
12月19日 小西しょう（オックスフォード大、英国）
12月25日 静永健（九州大）
1月13日 等々力政彦（トゥバ民族音楽家）
2月3日 古川哲（東京外国語大）

◆ 研究員消息 ◆

田畑伸一郎研究員は2013年8月6日～9月24日の間、ロシアと極東地域の持続的経済発展に関する聞き取り調査・資料収集のため、フィンランド、ロシアに出張。また11月20日～12月1日の間、第45回スラブ東欧ユーラシア学会（ASEEES）にて研究報告のため、米国に出張。

岩下明裕研究員は10月2～8日の間、セミナー「East Asian Studies」及びカナダ日本研究学会で研究報告のため、カナダに出張。また10月22～24日の間、ブルッキングス会議に出席のため、中国に出張。また11月7～8日の間、国際会議にて研究報告のため、韓国に出張。また12月15～23日の間、グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する成果発表のための打ち合わせ及び資料収集のため、米国に出張。

松里公孝研究員は10月6～25日の間、フィールド調査のため、中国に出張。また11月19～26日の間、第45回スラブ東欧ユーラシア学会（ASEEES）にて研究報告、打合せのため米国に出張。

家田修研究員は10月21日～11月8日の間、現地調査、研究打合せ及び資料収集のため、ウクライナ、ハンガリー、ルーマニアに出張。

山村理人研究員は12月15～23日の間、ロシア農業の構造変動とその地域展開に関する調査のため、ロシアに出張。

望月哲男研究員は12月20～22日の間、ソウル大学ジョイントシンポジウム出席のため、韓国に出張。

野町素己研究員は12月20～23日の間、ソウル大学ジョイントシンポジウム出席のため、韓国に出張。また1月9～17日の間、資料収集、研究打合せ及び研究会出席のため、コソボ、マケドニアに出張。

越野剛研究員は12月20～22日の間、ソウル大学ジョイントシンポジウム出席のため、韓国に出張。[事務係]

目 次

大学院だより.....	1
松下隆志さんに日本学術振興会育志賞	
グローバル COE.....	2
GCOE 博物館展示 「境界研究の拠点形成」の歩み 開催される	
研究の最前線.....	3
2013 年度冬期国際シンポジウム開催される／ソウル大学ジョイント・シンポジウム分科会 「過去としてのモダニズム：21 世紀の視点から見たロシア・モダニズム」開催される／2014 年度「スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究」に関する公募結果／2014 年度鈴木・中村基金奨励研究員募集中／2014 年度特任教員（外国人）決定／研究会活動	
学会短信.....	9
学会カレンダー	
図書室だより.....	10
【資料紹介】『チェコスロヴァキア日刊新聞』by 長與進／藤田整氏蔵書のお贈	
編集室だより.....	12
『ユーラシア国際秩序の再編』（岩下明裕編）刊行される／『スラヴ研究』	
会議.....	12
センター共同利用・共同研究拠点運営委員会／センター協議員会	
みせらねあ.....	13
人物往来／研究員消息	

2014 年 2 月 28 日発行

編集責任	大須賀みか
編集協力	家田修
発行者	宇山智彦
発行所	北海道大学スラブ研究センター 060-0809 札幌市北区北 9 条西 7 丁目 Tel.011-706-3156、706-2388 Fax.011-706-4952 インターネットホームページ： http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/
